

岩手山(9月度登山教室 避難小屋泊 1泊2日)

2018年 9月15~16日 山岳会 11名、登山教室 6名

9月度は吾妻山(避難小屋泊)縦走の予定でしたが、天候が悪そうなので急遽岩手山に変更になりました。

【1日目】

いわき合同庁舎を予定通り、am5時出発。一路、滝沢ICを目指します。

毎回のことながら、マイクロバスを運転してくださる山岳会の皆様、ありがとうございます。

10時に馬返し登山口に到着し、スタートです。少し登ったところに、きれいなトイレと水場(鬼又清水)があり、ここから本格的にスタートです。樹林帯の中の歩きやすい登山道でしたが、1合目まで長い長い。新道、旧道の分岐がありますが、行きは新道で登り、帰りに展望の良い旧道で下山することになりました。ところどころ景色が開けますが、もくもくと登りました。4合目から6合目までの登りが結構キビシかったです。7合目まで登り、岩手山の雄大な姿が見えました。天気も良くなってきました頃、ようやく8合目避難小屋に到着です。



小屋に荷物を置いた後、天気も良いので、有志で頂上を目指します。左周りで頂上が最短とのことでこのルートを進みましたが、火山特有のザレザレの登りで、ここは勘弁してほしい。下から見たのとは全く異なる景色で、お鉢巡り後、一目散に小屋に戻りました。

準備してもらった食材で、今日の夕食はヤキソバを頂きます。でもこれ以外に、おつまみやお酒が出てくる出てくる。たくさんいただきました。自分で持って行ったものが減らない、軽くない。

8合目避難小屋は3段のカイコ棚状になっていましたが、男性陣は2段目で、床面には銀マットが敷かれているので、持参のマットがなくても大丈夫と思います。本日の宿泊は81名とのことで、室内も暖かく、シュラフのジッパーは閉じずに快適に寝ることができました。トイレも男性用は個室が1つしかないのが少し難点ですが、水洗ですごくきれいなトイレでした。

【2日目】



2日目も有志で小屋から5時出発で山頂を目指しました。残念ながら途中で日の出となり、完全なご来光は拝めませんでした。鬼ヶ城が赤く染まり非常にきれいにでした。昨日は時計回りだったので、ザレザレの登りを避けて右の登り口から左周りで頂上を目指しました。

頂上では、地元の方に、あれが八幡平、秋田駒・・・など教えて戴きました。

今日は、全方向の山が見えました。湯気の出ているのが松川温泉、その向こうが八幡平と、頂上からの景色を楽しんだあと、小屋まで急いで戻り、朝食後、旧道を下山しました。

ザレ場に苦勞しながらも、下界の景色や、所々に現れる大きな岩に感動しながら、無事、登山口に到着しました。下山途中から、山頂はガスにつつまれており、今回は、本当に天候のタイミングに恵まれました。

そう、9月の登山教室の座学は山の天気についてでした。

登山教室のメンバーには、雨のキビシイ山も経験させたいとのことでしたが、今回も、計画変更で天候に恵まれました。みなさん持ってますね！

下山途中で、当初計画されていた吾妻山の噴火レベルが2に引き上げられ、入山規制になったとの情報も聞きましたので、今回の山行は本当にラッキーでした。

おらほの湯で入浴（野菜が安い）後、道の駅にしね（ほうれんそうが名産のようです）で昼ご飯を食べ、無事いわきに到着しました。

毎回、マイクロバスの運転をして頂く、山岳会の皆様ありがとうございます。今回も楽しい山行ができたことを感謝いたします。（小林 記）



行動記録

【1日目】

9月15日（土）馬返し登山口10:20⇒(10:54)0.5合目(新道)⇒(11:12)1合目⇒(11:34)2合目⇒(11:49)2.5合目(新道)⇒(12:03)3合目⇒(12:36)4合目⇒(13:04)5合目⇒(13:45)6合目⇒(14:25)7合目⇒(15:00)8合目小屋⇒(15:55)山頂⇒(16:50)8合目小屋(泊)

【2日目】

9月16日（日）8合目小屋5:00⇒(5:45)山頂⇒8合目小屋7:13⇒(7:20)7合目(旧道)⇒

(7:43) 6合目⇒(8:00) 5合目⇒(8:33) 4合目⇒(8:53) 3合目⇒(9:11) 2. 5合目⇒(9:31) 1合目(旧道)⇒(9:49) 0. 5合目⇒10:14 馬返し登山口

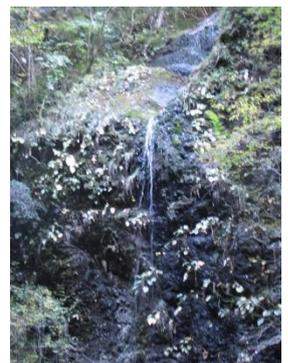


奥久慈岩稜 箆岩山501.4m 明山457.4m

2018年11月1日(木) 秋葉、渡辺敏夫、菊地由紀子、蛭田一二三

木地夜鷹山の予定であったが会津地方は天気が悪いので急遽、天気の良い奥久慈に変更。水郡線の西方駅から登山口の佐中に向かう。

民家の前を沢沿いに歩くと10ほどで不動滝、水量が少なくチョロチョロしか流れていない。滝を巻くように鎖場を登り沢を辿り急な尾根を登ると箆岩。大小いくつもの岩洞があり、石仏が祀ってある。不安定なアルミの梯子を恐るオソル上の岩洞に登ってみると、岩壁と紅葉の素晴らしいコントラストである。



少し行

くと展望台と東屋があり絶景である。ここの分岐を箆岩山へと進む。穏やかな尾根路を進み竜神狭分岐を分ける。やがて鎖場も現れ、緊張を要す

る所もあるがが箆岩山に着く。

分岐まで戻り明山へ向かう。樹林帯の登り下りを繰り返して、一枚岩で昼食とする。

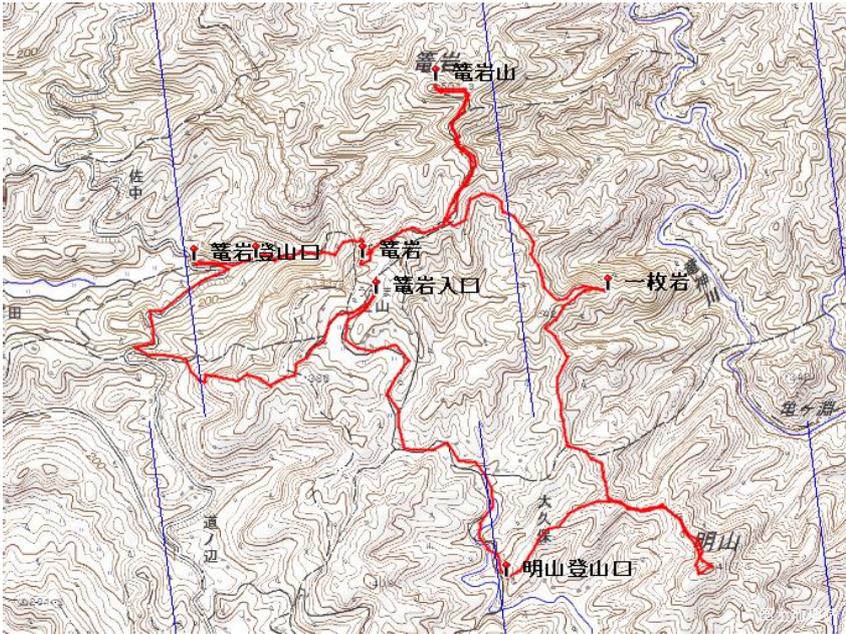
竜神狭への路から別れ明山に向かうがかなりの急登で喘ぎながら登るが、…絶景！



往路を戻り分岐を大久保の明山登山口から舗装道路を歩き上山地区へ。

ここから箆岩展望台から登った路を戻する方法もあるが距離は短いが陰しいので止めにする。

少し分かり難いが、上山からつつじが丘方面の山道に入る。七曲り



を下ると。久慈パノラマラインに出るので佐中へ戻る。休憩を含めて約7時間の充実した1日でした。

奥久慈の山は男体山が有名であるが、その他にも標高は低い緊張の強い面白い山が多く、奥久慈岩稜と呼ばれている。次は男体山から袋田の滝まで歩く予定。1月の登山教室では男体山に登る。是非多くの人歩いて欲しい。
登山口 8:15 → 籠岩 9:10
→ 籠岩山 10:30 → 一枚岩 12:00 → 明山 13:05

→ 登山口 14:00 → 上山 14:25 → パノラマライン 14:50 → 登山口 15:10 (文責: 秋葉信夫)

錦秋の沼沢湖周回、惣山・前山

2018年11月3日(土) 秋葉、芳賀、二瓶、太

紅葉の秋を堪能すべく、見頃を狙って沼沢湖を巡り、惣山・前山に登った。

午前6時少し前にいわき市常磐を出発し、磐越道を経由し、8時に沼沢湖畔の無料駐車場に到着。福沢登山口へ舗装路を歩く。もともと霧の出やすい湖、対岸の惣山は湖上の霧で見えない。

8時40分、神社の赤い鳥居をくぐり、登山開始。登るにつれ薄暗い杉林から明るい広葉樹林に変わる。全体に黄葉で、所々カエデの赤が美しい。霧のため、沼沢湖も反対側の只見川も見えない。小ピークを過ぎると、栈道のような場所や、多少の岩もあるが、特に危険を感じさせない、よく整備された遊歩道だ。

霧が晴れてくると、木々の間から沼沢湖が見え、湖面に周囲の山々を映し出す。よい天気でもよかった。電波塔の建つ惣山の山頂に到着し、果物と珈琲で一息。北側遠く雪に覆われた飯豊山が美しい。全体が白い飯豊山は何か月ぶりだろうか。南西には浅草岳も見える。

惣山を下って小ピークと野鳥の森を過ぎると、今日一番の登り、前山の急登。登りきると他県からの登山グループに追いつく。交代で互いのグループ写真を撮影。前山頂上から少しのところに絶好のビューポイントがある。眼下に湖、対岸に沼沢集落、遠くに磐梯山、雪に輝く飯豊連峰が見える。静かな湖面が風景を鏡のように映し出す。惣山・前山に来た際は、是非ここで写真を撮ってほしい

ビューポイントを過ぎると、湖畔まで一気に下り、湖に沿った遊歩道を歩く。駐車場まで戻ると13時をまわっていた。ザックを下ろし、車を走らせる。

帰路は、早戸温泉「つるの湯」で入浴し、3時近くに道の駅「会津柳津」で遅い昼食。磐越道をひた走り、午後5時いわき市常磐に無事帰着。

ゆるい山行だったが、紅葉の山と神秘的湖、雪の飯豊の遠望と、楽しめた一日だった。

コースタイム

8:08 駐車場→8:11 自然休養村センター→8:21 沼沢沼発電所取水口跡地→8:40 惣山登山口→10:10 惣山山頂→11:12 野鳥の森→11:46 前山山頂→12:38 遊歩道→12:57 前山登山口→13:13 駐車場

(文責：太)



朝日山 797m

(サンシャインいわき協カ山行)

平成30年11月10日(土) 曇りのちはれ

山岳会10名 一般22名 市職員2名

前日の雨が早朝まで残り、現地に着くまで時々霧雨が降っていて登山が心配されたが、開始近くなると空も明るくなり予定通り実行する事に。

新しく整備された東登山口階段から3班体制で順次出発する。



時期的に落葉が多く、足下はフカフカ状態だがペースがゆっくりなので歩き方や一般的雑談を交わしながら少々の登り斜面を多少残っている紅葉を見ながら進む。途中下山口の西口との分岐に着く。

ここから今日一番の200m程の登りだ。ゆっくりと蛇行しながら登ってもらい、程なく尾根道へ。

そよ風が気持ちいい。

山頂へは 300m位か。頂上は周りが綺麗に整備されていて見通しが良く、三株、明神、仏具の各山や海が確認できた。しかし富士山は未確認。

下山は途中から西登山口へ向かうが所々足場が悪く、どろ沼状態の場所があった。



下山口近くなると天候が良くなり、青空も見え始め爽快な気持ちになったところで山行は終了。

【コースタイム】 9:30 東登山口→10:10~10:20 山頂→11:00 西登山口

追伸：山岳会メンバーのみで近くの田人最高峰猿内三角点まで少々のやぶこぎで登りました。

展望はないが朝日山は確認できた。

【コースタイム】 11:00 県道→11:30~11:40 三角点→12:00 県道

(文責 大和田)

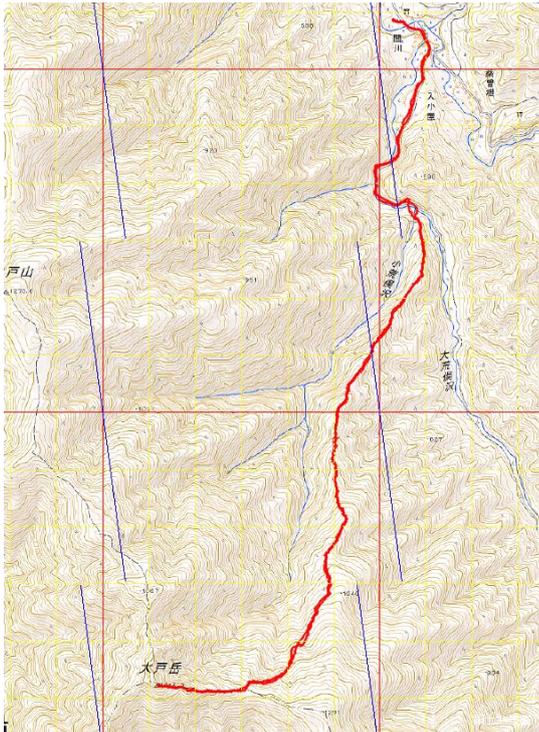


大戸岳(1416m)

10月25日(木) 渡辺敏夫

秋も深まり木々の色づきも進んでいるので、会津の大戸岳と三倉、大倉山を登ろうと一人で出かけた。数年ほど前、芦ノ牧温泉南駅の登山口から大戸岳に登ったが、このコースが廃道になっていたため、途中から道が分からなくなって登れなかったため、閻川口から再挑戦した。閻川口は大戸岳の北側からたどるルートだ。登山口の近くはまだ紅葉がそれほど進んではいないようだ。ルートが山の斜面の北側で光を正面から浴びる角度なので、木々の色づき具合がはっきりしない。尾根上に出ると明るく周りの木々の色づきがきれいである。大戸岳の頂上近くは岩尾根で両側が切れ落ちている。ロープが張られているので特に問題はない。尾根に出てしばらく進むと大戸岳の山頂に到着した。頂上でお昼を食べて下山した。途中で一人の登山者と会っただけで、静かな登山であった。

駐車場 10:23→大戸岳 13:15 13:55→駐車場 15:37



大倉山（1885m）,三倉山（1888m）

10月26日（金）

前日、大戸岳から下山後大倉山の峠林道登山口へ移動して車中泊をして登山に備えた。大峠林道は雨のため林道が一部崩れて、林道終点の登山口へ車は入れない。林道終点より手前の最終地点に車を止めた。そこより林道終点までは歩いて約1時間。空は晴れているが三本槍や大倉山方面は上空がガスでおおわれて山並みが見えない。大峠では視界はきくが、やはり三本槍や三倉山方向は頂上付近はガスでおおわれて見えない。三倉山を目指して高度を上げていくが、高くなるに従いさらにガスが濃くなり、強い西風が吹き付ける。良い天気を期待してきたが残念ながらあまり天候はよくないようである。大倉山山頂はガスの中であつたが、三倉山に近づくと時々視界が広がる瞬間が現れる。展望はきかなかったけれど少しの晴れ間があつたので良としよう。今日も1名の登山者と会っただけであつた。

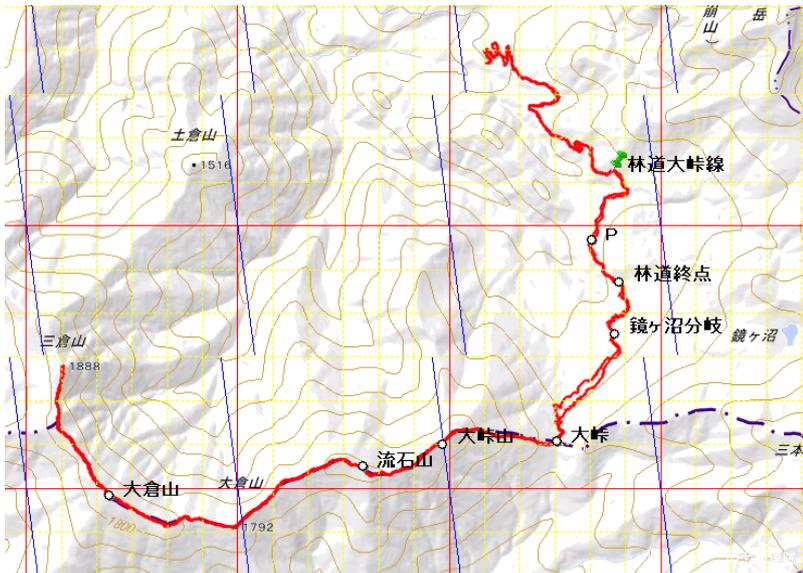




大峠と三本槍岳方面



三倉山を望む 唯一の晴れ間



駐車場 6:25 → 林道終点 7:34 → 鏡ヶ沼分岐 7:25 → 大峠 8:21 → 流石山 9:28 → 大倉山 10:26 → 11:01 三倉山 11:09 → 11:13 休憩 11:38 → 大倉山 12:03 → 流石山 12:50 → 大峠 13:29 → 鏡ヶ沼分岐 13:53 → 林道終点 14:08 → 駐車場 14:57

文責：渡辺敏夫

「栗ヶ岳」

2018年11月5日～6日(月・火)

山名 栗ヶ岳

参加者 秋葉、渡邊(敏)、栗崎(透)、栗崎(容) 計4名

今回の山行の秋葉さんからの提案は宮城・山形にまたがる「船形山」と新潟の「栗ヶ岳」。

天気予報をにらんで、3日ほど前に栗ヶ岳に決定しました。

恥ずかしながら名前すら知らなかった山につき、にわかに関情報を収集し、出かけました。

計画は、5日9時にいわきを出発、12時頃に歩き始め、

3時間ほどで到着する小屋「栗ヶ岳ヒュッテ」でゆっくり&宴会。

そして6日早朝、小屋から片道1時間10分ほどの山頂をピストンして下山……という予定でした。

ところが6日の予報に雨マークが入り、1日目に山頂まで行くことに変更。

今回のコースは、加茂市の水源地から歩き始める、中央登山道ルートです。

12:00 第一水源地前の「栗ヶ岳県民休養地」の駐車場に車を停めて歩き始めます。

林道を加茂川上流に向かって10分ほど歩くと第2水源地堰堤。

この堰堤のたもとでまず軽く昼食をとりました。(10分ほど)

そしてこの堰堤を歩いて向こう岸に渡ります。

12:23 渡ってほどなく「栗ヶ岳登山口」。そして「1」のナンバープレート。

このナンバープレートが山頂までガイドしてくれます。

一部急登もありますが、全体的には中程度の、迷い様のない登山道です。

登り始めには黄緑色だったコナラやブナ木々の葉が次第に赤や黄に染まりだします。

13:00 NOプレート3・長瀬神社からのハイキングコースと合流。ベンチがお出迎え。

ここの所急に寒くなってきていたので、寒さ対策寄りの装備だったのでしっかり汗をかかされ、ここで、いいクールダウンできました。紅葉もますますいい感じに。

13:44 Noプレート4を過ぎて進むとまたベンチ。ここが「大栃平」という所ようです。

大栃平からは、里から見上げたのと同じ三つのピークを見上げることができました。

ここを過ぎると、連続ハシゴやロープ、鎖が現れますが、規模は小さいものです。

14:27 鎖場を登りきるとさらに先の展望が広がり「6」のプレート。

ここが「栗庭の頭」という所でしょう。困って先ほどの鎖場が「栗庭の鎖場」のようです。

14:35「水場」の案内板。登山道から右手に入っていきます。

プレートには「70m 3分水平道(トラバース)」との案内。水は伏流水が露出したような感じで、冷たく美味しい水がたっぷり出ていた…とのことです。水を得て笹と低木に囲まれた道を行くと

15:02 突然目の前に現れた!という感じで、可愛らしい小屋・栗ヶ岳ヒュッテに到着。

小屋に入り、大荷物は置いて、サブザックで山頂ピストンします。

15:15 出発。まずは、仰ぎ見ていちばん左の、きれいな円錐形の北嶺へ向かいます。

小屋近くから見ても、はっきり見て取れるこれから歩く尾根の登山道。

少しのジグザグをしながらも一途にその円錐のトップに登り上げる道は、けっこうな勾配そう。

一人歩けるくらいの幅の登山道で両脇は中くらいの高さの樹林もしくは笹。

水場の辺り(h1,000m位)から上はもう紅葉は終わり、枯れ葉の状態だったので

背丈を越す樹林に囲まれても周りが見え、気持ちよく歩けました。

途中、北東方向に雪を抱いた飯豊連峰、そして北に権ノ神岳、宝蔵山、白山へと続く尾根などを眺め、

15:44 北峰を通過。この北嶺のほんのちょっと先に、「七頭」と書かれた分岐があり、そこが権ノ神岳、宝蔵山、白山へと続く分岐のようです。さらに三つのピークの真ん中のピークを過ぎると、また目の前に現れる新たなピーク。これを登りきると

16:00 栗ヶ岳 1,292.7m 山頂です。この時間ですから、予想どおりの貸し切りです。

雲は多いものの青空が広がる山頂は西日が射してなんとも言えない雰囲気。

もう十分に夕方なのではっきり遠くまでは見えませんが、西日射す南方面には守門岳、越後三山。

北東方面に飯豊山と大日岳、東のすぐ隣にはマッターホルンの小型版のような一本岳。そのずっと奥に磐梯山などの山を望むことができました。

16:12 小屋へ下山開始。来た道に戻ります。小屋に着くまでの間のサンセットが美しかった。

17:00 小屋に帰着。(たぶん皆さんから10分ほど遅れて) ヘッデンの必要もなく歩けました。

この後は、我々4人で貸し切りの小屋で宴会タイム。飲んで食べて喋って、22:00頃に就寝しました。星空は見られませんでした。街の明かりがキラキラととてもきれいでした。

翌朝

6:00 起床 栗ヶ岳北峰のシルエットの上の空は、雨を降らせそうな黒い雲を朝日が赤く照らしてなんとも言えない空模様。やはり今日は確実に降りそう。。できれば雨が降り出す前に下山したい。

7:20 サクサク準備して下山開始。

(ちなみに小屋には毛布が6.7枚ありました。2階の様子は見ていなかったのでわかりません)

高度を下げると現れる紅葉帯の赤や黄を再び楽しみながら、また、登りでは気づかなかった新潟平野と弥彦山の展望を眺めながら下り

9:20 駐車場に帰着。車に乗り込むのとほぼ同時に雨粒が落ちてきました!!

お天気の神様に感謝です。

この後、五泉市馬下保養センターのお風呂でさっぱりし、

阿賀町の道の駅に寄ってラーメンを食べて帰途につきました。

登るまで名前すら知らない山でしたが、とても楽しく、魅力あふれる山でした。

もう終盤かなと思っていた紅葉も意外と残っていてくれて楽しませてくれました。

今回の情報収集のために買った「新潟100名山」という本にも魅力的な山が満載!

少しずつ友好関係を築けたらいいなぁと思っています♪

お世話になった秋葉さん、渡邊さん、ありがとうございました。(文責 栗崎 容子)

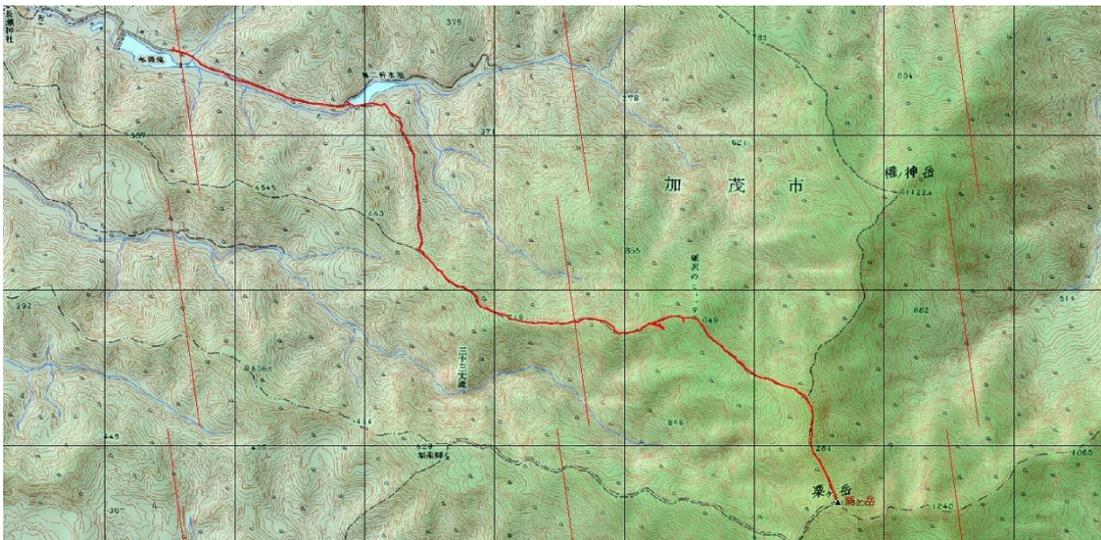
☆ 拙いブログですが山行のレポートもアップしています。

良かったら覗いてみてください。

錦秋の栗ヶ岳へ!

<https://blogs.yahoo.co.jp/cordonjps/64718237.html>





川桁山

2018年9月23日(日)

メンバー 秋葉・小林・柏村夫妻・西・渋谷・志尾崎・松本

集合場所の「道の駅 猪苗代」に着いた時はあたり一面濃い霧に覆われており、いつもならばはっきりと見える川桁山の姿は全く見えませんでした。

けれど登山口へ向かうに従い徐々に霧も晴れ出発の時間にはスッキリ青空となりました。

準備を整えいざ出発。

始めは緩い登山道をおしゃべりしながら進みます。しかし軽快に歩を進めた所で急登！

落葉がかかり木の根も出ていたので登りづらい。

下りが嫌だなと思っていたら、ここを帰りは降りるのよね？やだなとの声がちらほら。みんな気持ちは同じだったようです（笑）

時には手を使って急登を登りきると尾根道に出ます。

両脇は木で囲まれ展望良好とはならないのですが、この尾根道には苔ときのこがたくさん生えていました。

秋葉さんに毒ありきのこの見分け方を教えていただき、色々な種類のきのこを写真に撮って楽しみました。

山頂は少しだけ開けており猪苗代湖を望むことができます。

観音寺川へ降りる登山道へ少し進むと安達太良山も見えました。景色を堪能した後は山頂でおやつを食べ下山。

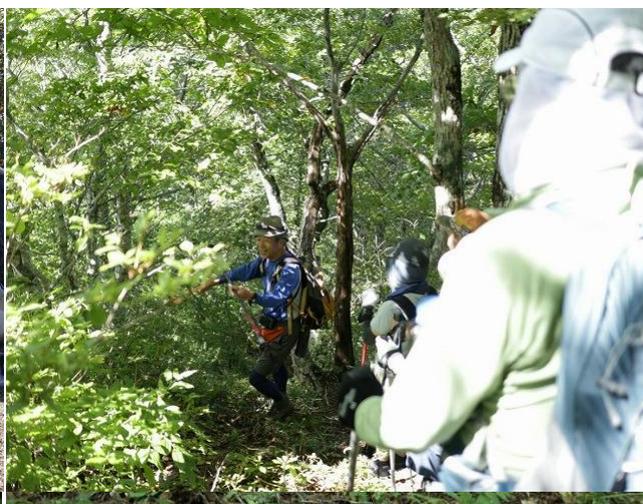
登りで思った通り急な下りにひいひい。ポールを忘れた事を後悔しました。

踏ん張りながら下りた後は、お蕎麦屋さんで美味しいお蕎麦を頂きました。一汗かいた後に食べる冷たいお蕎麦は格別でした！

川桁山に内野側から登られる際は登山道が乾いている日にポールを必携して登る事をお勧め致します。

終始天気にもまれた良い山行となりました。

登山口 7:30 → 川桁山山頂 10:10-11:10 → 登山口 13:00



博士山山行報告 (南会津 1482m)

平成30年11月8日(木) 晴れ
参加者 秋葉信夫 渡辺敏夫 志尾崎裕子

登り2h19m 下り1h56m 標高差708m

不動沢林道登山口「博士山郷土の森」案内板より登山開始。シダの登山道を少し登ると、道海泣き尾根の分岐、水場あり。赤や黄色の葉がはらはらと落ちる中を木の根や岩角につかまりながら登る。トラロープが張られた所やアルミのはしごなど急登続き、しばらくのぼると、大きな岩の下にシャクナゲ洞門の表示。上に登ってみるとそこはしゃくなげが群生している場所であった。クロベの大木もあった。

そこから緩やかな尾根になりまもなく分岐に着いた。だんだん展望が良くなり、会津の山々や会津盆地の家並みをのぞむ。あと少しとピークを目指す、そこは社峰でがっかり。

本当の頂上はさらに先に見えた。1000メートルを越えるとまるで冬の山のように、木々はすっかり葉を落とし、ガスのかかった中は寒々しかった。細い尾根を進んだ山頂は小さな広場、1等三角点あり。ザックを下に置くと、小さな黒い虫が群がり、ざわっとした。

雲の中で展望なし。パンプキンスープを温め、3人で食す。

下りは眼前すぐ近くに志津倉山をのぞむ。分岐まで戻り、近洞寺コースを通り、大谷尾根コースを下り。どっしりと根を張った、見事なクロベの大木を何本も見かけた。根がタコの足のよう張っていたので驚いた。

私はヒノキと思ったのだが、ヒノキはまっすぐ1本で直立する。幹が何本にも分かれたようにはならない。葉の裏は葉脈がヒノキ、アスナロ、サワラなどのものとは異なっていて、白くはならない、との秋葉さんの説明に感心した。



近洞寺跡を過ぎ下りもかなり急坂を下る。沢沿いではオニグルミとサワグルミの違いを教わり、いつもながらの博識ぶりに感心。下山口まで下り、その後は舗装された林道を15分ほど歩いて駐車場に戻った。

